

## 「わたしたちの奈良県地図」 の作成に取り組んで

奈良県天理市立前栽小学校  
奈良県小社研事務局編集部長 松好 伸泰

### 1 はじめに

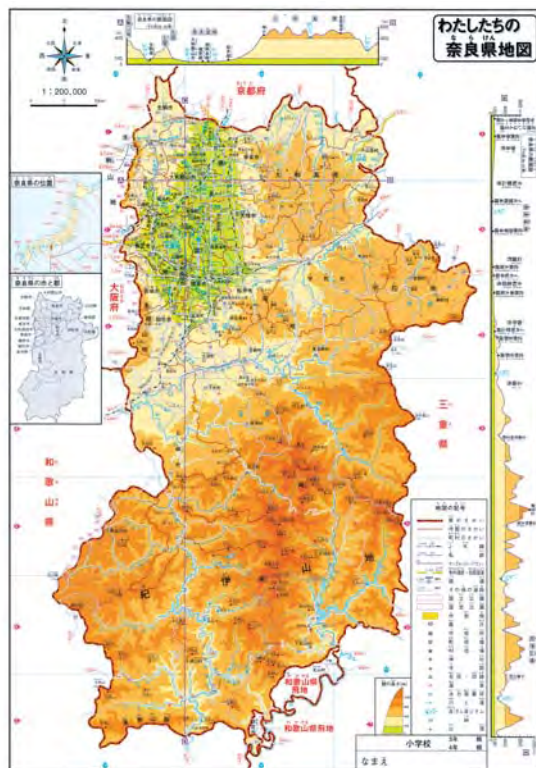
奈良県では、3年生になると、県版副読本「奈良県の暮らし」と「わたしたちの奈良県地図」、各市町村版の副読本が配布される。学習指導要領が改訂され、全国各地の地域の副読本や地図もそれに伴って大きく改訂されることだろう。県版や市町村版の地図を作成される所も多いことから、全国の先生方の参考になると思い、「奈良県地図」の作成のポイントについてまとめてみようと考えた。

### 2 奈良県地図のあゆみ

戦後社会科が生まれ、奈良県でも昭和40年に奈良県版の社会科副読本「わたしたちの郷土 奈良県の暮らし」が初めて発行された。「奈良県地図」は、その時からB4判の地勢図の形で作成され、副読本に入れられていた。

その後、平成4年の学習指導要領の改訂時に「奈良県地図」は大きく変わった。大きさはB3判となり、2倍になった。表は地勢図だが、裏にも産業地図が掲載されるようになった。この時期から奈良県小学校教科等研究会社会科部会（奈良県小社研）の事務局の担当者が毎年修正を加えるようになった。

さらに、平成14年の学習指導要領の改訂に伴って、「奈良県地図」も大改訂を行い、現在の「わたしたちの奈良県地図」になった。この地図では、学習で活用しやすいように、様々な工夫を凝らした（資料①）。



資料①「わたしたちの奈良県地図」表、地勢図

### 3 わたしたちの奈良県地図の特色

#### (1) 大きく見やすい地図にした

B3判からさらに大きくしてA2判とした。縮尺も21万分の1から20万分の1へと大きくなり、見やすくなった。

#### (2) 地図上の位置を表現する記号をつけた

全国版の地図帳の索引記号のように、南北に1～7、東西にア～ウの記号を等間隔に配置し、地図上の位置を、南北と東西の記号で表現できるようにした。

#### (3) 断面図を掲載した

奈良盆地と大和高原の地形的な特色を理解させるために、A-Bという東西の線で切った断面図を掲載した（資料②）。また、吉野山地の険しさを理解させるために、地図上のC-Dという南北の線で切った断面図も掲載した（資料①右端）。注：高さの縮尺は異なる。

県の北西にある奈良盆地はその名の通り山に囲まれており、西には大阪平野との間に信貴・生駒山地と金剛山地、東には大和高原のなだらかな山々が広がっている。東西の断面図は、このような地形的な特色を理解させるために活用している。また、県のほぼ中央を東から西に流れる吉野川（紀ノ川）を境に、北と南とでは大きく地形が異なる。南部の谷が深く山が険しい山岳地帯の地形を理解させるために南北の断面図は非常に有効である。



資料②「わたしたちの奈良県地図」表、地勢図（県北部）

#### (4) 色づかいを全国版の地図帳に合わせた

全国版の地図帳と違和感なく県版の地図を使うことができるようにするために、表の地勢図の色づかいを帝国書院の全国版の地図帳に合わせた。

### 4 信頼性の高い地図をめざして

新しい道路が次々にでき、地域の産業をはじめ地図に表すべき社会はどんどん変化していく。そのため、毎年地図に修正を加えなければならない。県小社研事務局編集部としては、毎年、県の道路建設課等を訪ね、次の年の4月までに開通する道路について調べている。また、インターネットの地図検索やGoogle Earthを活用して、細部の修正や市町村合併後の地名の確認等、修正に使っている。新しい道路でネットの地図にも出ていない場合は、実際に車で走って調べることもある。

さらに、できるだけ多くの目で見直すことができるように、また、地域で学習に必要な内容を入れるために、県小社研の郡市の理事の先生を中心に、各郡市ごとに地図の見直しをしてもらっている。県内のすべての地域に住む児童の立場に立ち、それぞれの小学校で学習に役立つ地図になるように修正している。

今、最も気がかりなのは、近畿農政局奈良統計情報事務所が奈良県産農作物の統計を取りまとめなくなったことである。産業地図の拠り所としていたものであり、今後は「JAならけん」などから統計資料を集める必要があると考えている。これは、全国的に地図を作成するものにとって大きな問題である（資料③）。

各学校の先生方にとって、この地図を使ってどんな学習をしたらよいかの必ずしも明確になっていない部分がある。今後は、この「わたしたちの奈良県地図」を活用した学習事例を「奈良県の暮らし－指導の手引き－」等で県内の先生方に提案し、効果的な学習ができるようにしていきたいと考えている。



資料③「わたしたちの奈良県地図」裏、産業図（県北西部）